

【資料紹介】

お伽草子

『四十二のものあらしひ』

伝本紹介その二

— 国会図書館蔵

『源氏四十二のものあらしひの事』
について—

周防 朋子

一、はじめに

国立国会図書館が所蔵する『源氏四十二の物
あらしひの事』は、『国書総目録』に

源氏四十二の物あらしひの事

一冊 (類) 注釈 (写) 国会

と著録されている。内容は、『四十二のものあらしひ』と同様であるが、『国書総目録』の「四十二の物あらしひ」の項目には採用されていない。本稿では、本書の紹介を中心として、その意義についても述べたい。

二、書誌

本書の書誌は以下の通りである。

国立国会図書館

(855-13、以下国会本と略称する)

縦二〇・七糎、横一四・七糎、表紙左側(外題)には「源氏四十二の物あらそひの事」と墨書。首題に「源氏四十二の物あらそひの事」とあり。表紙は、丁子色で、文様なし。装幀は袋綴で一面八行書き。料紙は楮紙、遊紙なし。墨付は、一八丁。字高は、一四・五糎。表見返しに、「源氏四十二の物あらそひ源じの巻」とあり。裏見返しはなし。絵なし。合点のみ朱書。表表紙と裏表紙のそれぞれに書入れがあるが、表表紙の書き入れは別筆とみられる。裏表紙の書き入れについては、同筆別筆の判読不能である。奥書はなし。

三、国会本の特徴

『四十二のものあらそひ』という書名から、

四二首からなるのが原形と予想される。

本書は、四二首(1〜42)揃っており、和歌の順番も『四十二のものあらそひ』最古の伝本とされている大阪青山歴史博物館蔵本(赤木文庫旧蔵。以下、大阪青山本と略称)と同じである。四二首揃っていて、順序も完全に一致する伝本が、他にも二〇数本ある。

今回紹介する国会本の本文の後には、三〇首の和歌が付されているという特徴がある。これらの和歌三〇首中最初の二五首は、本文と同筆であるが、残りの五首については、裏表紙に薄く書かれており、本文と同筆かどうかの判読がつきにくい。

三〇首中二一首の典拠が分かっており、九首は、不明である。典拠が分かっている、二一首のうち最も多いのが、『古今和歌集』からの典

扱で一一首ある。本文と同筆部分の和歌には、『六華集』や歌舞伎などを典拠とするものがある。このことから、本書の書写年代は、江戸時代の可能性が高い。また、和歌の詳しい典拠や翻刻については何れ稿を改めることとしたい。国会本本文の字句の異同について見ていきたい。

まず最初に、冒頭一首目の歌のあとに続く、四十二のものあらそひが催されるくだりが書かれた物語部分がすっかり落ちてゐる。(大阪青山本により◇内に補った)。

おほかたはあらそふころとしりながら

ころひとつに秋をさためん

へとあそはして、こしうのきみして、まいらせ給ふを、御らんしてをんなは、あきをあはれみ候、ことはり、まことにとてわらはせおはしますうへにも、いつより、御つれ／つれにおほしめし、これをはしめとして、四十二のもの

あらそひ、あるへしとて、御まへにさふらふ人／＼、また、ないしのすけなとも、めん／＼に、御つかひありければ、まいり給ふいろ／＼のうすやうに、さま／＼の事をあそはして、中のみやの御かたを、はしめとして、いま四十一なれは、くきやう、てんしやう人も、御まへにさんたいし給ふまつ、うへの御かたよりも。◇

月の夜と雪のあしたと

ふる雪はつもらぬかけもありあけの

月そくまなきふゆの山さと

(国会本)

また、二四番「いわねのまつとのきのしのふと」の歌の後、二五番「しやうやうしんかうらみと」の歌の前に上陽人と王昭君と関係のある「もろこしの事やうきひにねたまれてらうにいれられてむなしく月日をおくりし思ひ春の国へわたされし人なり」という一文がある。(傍線部)。

いはねのまつと、のきのしのふと

くわさんのゐんのしゝうのきみ

さひしさは、いはねのまつや、まさるらん、のきのしのふは、あまりめなれて

しやうやうしんか、うらみと、わうせうくんか、かなしみと

ときはの大しやう

なけきゆく、みちのくさはの、つゆよりも、まとうつあめや、そてぬらすらん

(大阪青山本)

いわねのまつとのきのしのふと

くわさんのゐんのしゝうのきみ

さひしさはいはねのまつやまさるらん

のきのしのふはあまりめなれて

もろこしの事やうきひにねたまれてらうにいれられてむなしく月日をおくりし思ひ春の国へわたされし人なり

しやうやうしんかうらみと

わうしやうくんかかなしみと

ときはの大しやう

なけきゆくみちのくさはの露よりも

まとうつあめや、そてぬらすらん

(国会本)

次に、三八番「うきふねのかほる大しやうに
しられたてまつり」という部分に、「ひやうふ
きやうのみやの御ことを」という言葉が挿入さ
れて、「うきふねのひやうふきやうのみやの御
ことをかほる大しやうにしられたてまつり」と
なっている。その為、国会本には詠者が書かれ
ていない。(傍線部)

けんしの、女三のみや、かしはきの
ゑもんのかみの文を、しとねのした
より、見つけれし、あさましさと
うきふねの、かほる大しやうに、し

られたてまつり、すゑのまつ山とかきて、つかはされたりし、こゝろ、いつれ、つらかりける

みやうふのきみ

うきふねの、身をこかしける、おもひより、しとねのしたに、しく物そなき

(大阪青山本)

けんしの女三のみやかしは木のゑもんのかみのふみをしとねのしたよりみつけられしあさましさとうきふねのひやうふきやうのみやの御ことをかほる大しやうにしられてすへのまつとかきてつかはされたりしこゝろをはいつれ、つらかりける

うきふねの身をこかしける思ひよりしとねのしたにしく物そなき

(国会本)

最後に四二首を詠んだ後、管弦の遊びを行っている物語部分で、次のような脱文がある（大阪青山本により◇内に補った）。

なかみやの御かたは、いまは廿一に、ならせ給ふ、しろき御こそでの、なたらかなるに、やなきの五つはかり、をかしけに、きなしたまひ、さうのことに、よりいさせ、をはします（たゝならぬ御事にて、此このころ、御さとへをはしますへきを、みかとは、あかすかなしく、おほしめしけり

(大阪青山本)

これらの本文異同は、国会本だけにみられる特徴である。論者が調査した七〇強の伝本には、このような異同がない。国会本独自の本文である。

四、おわりに

本書の内容は、『四十二のものあらそひ』であるが、首題から『源氏物語』との関連を伺わせる。『四十二のものあらそひ』の本文には、『源氏物語』の題材となっていることなどから、『源氏物語』との関連についても考えなければならない。

『四十二のものあらそひ』と『源氏物語』との関連や、国会本『四十二のものあらそひ』の巻末に付されている三〇首の和歌と『四十二のものあらそひ』本文との関係については、別稿に譲ることとしたい。

注

(1) 『国書総目録』第三巻 昭和四〇年八月三〇日 岩波書店

(2) 国会図書館蔵『四十二のものあらそひ』は数本所蔵があるため、便宜上所蔵番号を付した。

(3) 赤木文庫旧蔵。大永頃の書写と推定されている。引用は『室町時代物語大成』第六による。

(4) 便宜上論者が国会本『源氏四十二の物あらそひの事』の和歌を一首目から順番に番号を付した。

付記 貴重な資料の閲覧をお許しいただいた多数の関係諸機関に深謝申し上げます。

(甲南大学非常勤講師)